

第2章 帯広市の概況

第1節 自然条件

1 位置

帯広市は十勝平野のほぼ中心部に位置し、東は札内川を境に幕別町、西は芽室町、南は中札内及び更別村、北は十勝川を境に音更町に接している。

東端	北緯42° 45′ 47″	東経	143° 16′ 6″
西端	北緯42° 44′ 52″	東経	142° 41′ 13″
南端	北緯42° 36′ 53″	東経	142° 54′ 2″
北端	北緯42° 57′ 10″	東経	143° 7′ 50″

東 西	46.8 k m
南 北	43.3 k m
周囲長	190.2 k m
面 積	618.94 k m ²

帯広市役所地点	北緯42° 55′ 25″	東経143° 11′ 48″
	標高 39.01m	
帯広測候所地点	海拔 38.4 m	

2 地 勢

- (1) 本市が中央に位置する十勝平野は、北海道の南東部にあり、西は日高山脈、北は大雪火山群・十勝火山群、東は白糠丘陵に囲まれ、南は豊頃丘陵を経て、太平洋に臨んでいる。
- (2) 地質構造的には、関東平野に類似する構造盆地をなすといわれ、造盆運動による数度の沈降と上昇を繰り返し、本市付近に河川が集中するという特異な河川形態をとる一大構造盆地を形成している。
- (3) 平野の大部分は、東部の洪積台地である豊頃丘陵地、北部の然別火山群の裾に広がる隆起扇状地、西部の日高山脈を背にし、北は新得から南は広尾に連なる広大な複合扇状地と河岸段丘からなる台地で、表層は樽前山、十勝岳、恵庭岳、支笏火山等から噴出した火山灰で覆われている。
- (4) 市域の約60%は平坦で、他は日高山系の山岳地帯である。

3 気象

(1) 概況

本市の気候は、北半球特有の亜寒帯気候区に属し、春と秋は短く夏は割合に高温である。冬は厳しい寒さで雪は少なく晴天の日も多く、いわゆる大陸的気候である。最近の現象では、冬が多雪に見舞われたり、昭和49年には積雪零に等しいこともあった。また、記録によると、帯広の最低気温は、明治35年1月26日に氷点下38.2℃まで下がり、最高気温は令和元年5月26日の38.8℃である。

大陸的気候の特徴で寒暑の差は国内トップクラスである。年平均気温の差は10.6℃、(年平均最高気温13.9℃、最低気温3.3℃、令和2年)、明治28年3月22日には35.7℃(最高気

温8.5℃、最低気温-27.2℃）の驚異的な差になった。

最も早い降雪記録は、昭和20年10月11日。最も遅い降雪記録は昭和16年5月26日である。

（2）過去の気象記録

年	気 温 (℃)			平均湿度 (%)	総降水量 (mm)	最深積雪 (cm)	日照時間 (時間)	平均風速 (m/s)
	平均気温	最高気温	最低気温					
S61	5.5	35.1	-23.2	72	810.0	35	2163.2	1.9
62	6.3	33.4	-25.2	70	749.0	61	2089.2	2.2
63	6.5	35.4	-20.1	72	990.5	33	1979.1	2.0
H 元	7.6	33.4	-21.8	74	998.0	22	1961.4	2.0
2	7.8	32.8	-24.9	75	1091.0	60	2041.4	1.8
3	7.3	33.2	-22.9	72	810.0	96	1997.8	1.9
4	6.4	32.2	-21.8	75	755.0	39	1839.2	1.9
5	6.3	29.8	-20.8	75	1022.0	55	1821.3	1.9
6	7.6	37.0	-22.3	72	938.0	49	2151.4	2.0
7	7.1	34.5	-23.4	75	1044.5	91	1861.8	1.8
8	6.2	32.7	-21.1	72	791.5	58	1893.5	1.9
9	6.8	32.3	-19.2	73	881.5	70	1962.3	1.8
10	6.6	32.2	-25.0	75	1116.5	76	1909.7	2.4
11	7.3	36.3	-22.0	72	793.0	57	2153.8	2.3
12	6.7	34.6	-26.7	73	1114.5	92	2011.9	2.3
13	6.0	32.7	-24.3	70	885.0	94	2083.7	2.4
14	7.0	32.8	-20.0	71	948.0	75	2101.5	2.3
15	6.4	30.8	-22.5	73	830.5	87	2009.0	2.2
16	7.5	35.2	-20.8	71	827.0	111	2142.5	2.3
17	6.9	35.4	-21.5	71	734.0	82	2114.0	2.3
18	7.3	34.3	-20.9	71	963.5	51	1950.3	2.3
19	7.4	35.5	-16.5	71	893.5	41	2116.0	2.1
20	7.3	33.2	-22.7	73	476.5	51	2025.8	2.1
21	7.2	32.8	-20.3	74	1076.5	79	2002.6	2.1
22	8.0	36.0	-22.4	73	1159.0	72	1919.0	2.1
23	7.5	34.0	-19.4	71	876.0	52	2054.4	2.1
24	7.2	33.9	-22.5	75	1177.0	76	1883.8	2.0
25	7.3	33.6	-22.7	74	933.5	72	1944.6	2.2
26	7.6	34.8	-20.7	70	885.0	53	2162.4	2.3
27	8.1	36.5	-20.2	71	890.5	80	2094.2	2.2
28	7.2	32.3	-19.6	71	1275.0	97	2063.9	2.2
29	7.2	37.1	-22.1	69	892.5	63	2181.9	2.1
30	7.5	34.5	-21.3	73	1107.0	106	1986.9	1.9
R 元	7.9	38.8	-24.5	72	778.0	33	2152.6	2.2
2	8.1	35.8	-22.4	74	716.0	78	2011.7	1.9
3	8.2	37.1	-21.5	74	1002.5	67	2085.0	2.0
4	8.3	33.7	-19.7	74	1011.5	62	2088.7	1.9
5	9.1	35.8	-22.3	73	808.0	66	2165.3	1.9
6	8.9	35.1	-18.6	73	671.0	58	2128.7	1.9

第2節 災害の概況

1 主要災害記録

（1）雪害・風害

発生年月日	被 害 状 況
大正13年 5月10日	強風、農作物に大きな被害
昭和6年 3月20日	暴風雪
昭和6年 5月25日	降雪により農作物に被害
昭和13年 6月4日	風害により十勝全域農業被害
昭和14年 1月19日	降雪、吹雪、広尾線不通
昭和14年 2月6日	南十勝に大雪、広尾線8日間不通
昭和15年 5月25日	大雪
昭和33年 2月12日	帯広で68cmの降雪。強風も加え、交通網寸断され、国鉄95本の列車運休。家屋の倒壊、橋の被害3,500千円
昭和35年 1月16日	降雪49cm。広尾線20本、士幌線28本運休、根室本線56本運休 バス市内市外とも全休
昭和36年 1月25日	降雪量35cm。交通機関麻痺
昭和36年 2月7日	降雪量26cm。交通機関麻痺
昭和38年 5月22日	強風、異常乾燥で農作物に被害
昭和39年 3月22日	強風、十勝一帯（芽室町大火）
昭和41年 3月16日	降雪量49cm。水分を含んだ重い雪のため送電線が切れたり、高圧線鉄塔倒壊。交通機関麻痺
昭和42年 8月26日	降 ^{ひょう} 雹被害。（基松方面）
昭和42年 9月9日	この日から18日間にわたる長雨で湿潤、農作物に大きな被害
昭和44年 2月1日	降雪量87cm。交通寸断
昭和44年 2月5日	降雪量69cm。交通麻痺、孤立地域あり。自衛隊に災害派遣要請
昭和45年 1月31日	降雪量57cm。国鉄293本運休。バス・タクシー運休
昭和45年 3月16日	日降雪量102cm。帯広測候所開設以来の豪雪 農村部牛乳搬出不能。建物にも被害(被害総額109,799千円)
昭和47年 2月14日	降雪量50cm。交通機関麻痺
昭和47年 6月10日	降 ^{ひょう} 雹。帯広・芽室・幕別2,200haの畑に被害
昭和48年～49年	この間の冬は、記録的な豪雪となり、樹木に寒干害が出て苗圃・庭木に被害
昭和50年 3月21～22日	ドカ雪に見舞われる。帯広100cm。十勝支庁に「3.22 低気圧災害対策本部」設置。交通機関をはじめ送電線の切断、家屋の倒壊、ビニールハウスの損傷など（被害額680,000千円）

第2章（帯広市の概況）

発 生 年 月 日	被 害 状 況
昭和50年3月24日	降水量32.5mm。この後遺症で春の農作業が遅れたり、融雪洪水のため田畑冠水、住宅浸水の被害
昭和53年1月21～22日	総降雪量88cm。バス全面運休、国鉄ダイヤの乱れ、学校の臨休、氷まつり中止
昭和54年4月3～4日及び17日	大雪による交通障害。さらに、融雪と強風による災害により、十勝管内の総被害額2,423,970千円
昭和55年5月28日	強風（砂塵）により農作物被害
昭和56年8月23日	台風15号、最大瞬間風速25.5m。住家一部破損205世帯、4,900haの畑に被害。その他営農施設、民有林被害合計1,155,000千円
平成3年1月18日	日降雪量92cm。1月の日降雪量としては帯広測候所開設以来の記録。交通機関麻痺
平成3年9月27～28日	強風害、台風19号により被害が発生。帯広の最大瞬間風速22.6m/s。広尾町負傷者1名。帯広市住宅屋根破損など農業被害10,580千円、林業被害205,950千円、水産業被害154,170千円、停電1,900戸
平成4年9月3日	強風害、帯広の最大瞬間風速25.7m/s。学校、住宅、倒木被害
平成6年2月22日	強風害、帯広の最大瞬間風速21.1m/sのこの強風によりJR根室本線の新得町付近で列車脱線、負傷者7名、列車計38本運休
平成6年10月13日	強風害、台風29号により広尾町と大樹町中心に住宅被害 帯広の最大瞬間風速20.0m/s
平成7年4月20日	強風害、発達した低気圧により、帯広市、音更町など1市5町で住宅被害39件。帯広の最大瞬間風速25.8m/s
平成8年1月8～10日	強風・大雪害、南岸低気圧による大雪。帯広空港10便欠航、JR9本運休など交通障害が多発、日最大降雪量は帯広27cm、最深積雪は帯広空港69cm、最大瞬間風速は帯広で19.3m/s
平成8年2月5～6日	大雪害。南岸低気圧による大雪。総降雪量は帯広24cm、中札内村上札内74cm、帯広空港の5日の日降雪量は59cm。
平成11年3月5～6日	強風害、猛烈に発達した低気圧による停電は帯広・音更・芽室・幕別等15市町村で約6万8,700戸。帯広の最大瞬間風速25.0m/s
平成11年9月24～25日	強風害、台風18号による停電は帯広・幕別・上士幌・足寄の4市町で2,150戸。帯広の最大瞬間風速26.7m/s
平成12年1月7～13日	7日降雪量44cm、10日降雪量29cm、13日降雪量11cmの大雪。災害対策本部設置
平成14年1月21～22日	農家のビニールハウス等の倒壊14件、負傷者1名。 総降雪量35cm、全小中学校休校、交通障害
平成14年6月10～11日	強風害。帯広市の最大瞬間風速24.7m/s。住宅屋根破損、公園内樹木、街路樹倒木、農作物被害等

発 生 年 月 日	被 害 状 況
平成14年10月1～2日	強風害。台風21号の影響で街路樹、防風林倒木、農業施設（ビニールハウス、倉庫）被害等。帯広の最大瞬間風速 32.3m/s
平成15年9月13～14日	強風害。台風14号の影響で民家屋根トタン剥離、街路樹、公園樹木倒木、被害等。帯広の最大瞬間風速 23.9m/s
平成16年4月21日	強風害。民家屋根トタン剥離、街路樹、公園樹木倒木、被害等。帯広の最大瞬間風速 27.0m/s
平成16年9月7～8日	強風害。台風18号の影響で街路樹、公園樹木倒木、農業施設（ビニールハウス）被害等。帯広の最大瞬間風速 20.5m/s
平成18年3月20日～21日	強風害。日本海北部と関東沖にあった低気圧が、20日にはオホーツク海で一つにまとまり非常に発達し21日にかけて強風となった。帯広市で街路灯倒壊1件、倒木・枝折れが2件発生した。帯広の最大瞬間風速 27.3m/s
平成18年3月30日	大雪害。発達した低気圧による湿った大雪により、ビニールハウスや牛舎併せて8か所損壊した。道路は国道4路線、道道1路線、高速2路線が降雪や視界不良、なだれ等により通行止めとなった。また、JRは普通列車7本が運休、特急に遅れが出た。航空機は帯広発着の11便が欠航。帯広の総降雪量 38 cm
平成20年5月11日	強風害。高気圧に覆われて日が射していたが、上空には3月下旬並の寒気が入っていた。桜まつりの会場で局地的に突風発生。吹き飛ばされた会場テントの支柱が子供にあたり1名軽傷。帯広の最大瞬間風速 8.8 m/s
平成26年12月16～17日	大雪害。小中学校全校が臨時休校、あいのりバスが終日運休したほか、大正町にて倒木の影響により53戸が約2時間停電。総降雪量は帯広市街地 60cm、帯広空港 73cm
平成28年2月29日	大雪害。 総降雪量は帯広市街地 45cm、帯広空港 56cm
平成30年3月1日	大雪害。帯広観測所における総降雪量は47cmとなり、3月としては観測史上6位。十勝管内各地でも記録的な大雪となった。 積雪によりD型ハウスなどの営農施設11件やトラクター等の営農機械7台に被害。また、市内各地での通行止めや交通渋滞に加え、JRや路線バス、タクシーの運行停止など、交通網が機能停止したことにより帰宅困難となった市民等を受け入れるため、市役所11階を一時休憩所として開放。翌朝まで宿泊した方も含め、6名が利用。
令和3年12月1～2日	強風害。日本海北部の低気圧が急速に発達しながらサハリン付近に進み、南にのびる前線が北海道を通過。1日夕方から南西の風が急に強まり、帯広空港で最大瞬間風速 25.7m/s を観測。2008年からの統計期間で第1位の値を記録した。また、倒木等により同時刻から停電が発生し、農村部を中心に最大約2,150戸が影響を受けた。1日に帯広の森体育館、2日に大正農業者トレーニングセンター、川西中学校を避難所として開設し2名が利用。倒木被害73件、建物被害21件、農業施設（ビニルハウス、牛舎等）被害668件、転倒等による人的被害3件。

第2章（帯広市の概況）

発 生 年 月 日	被 害 状 況
令和4年1月11～12日	大雪害。十勝管内で高速道路2路線、国道4路線、道道1路線が通行止めとなり公共交通機関の運休も相次いだ。ビニールハウス18件(22棟)、農業倉庫1件が被害を受けた。 11日正午からの24時間降雪量は帯広市街地59cm、帯広空港57cm。
令和4年12月22～23日	雪害。湿った重い雪の影響で倒木や電線等への着雪が多発し、停電や電話の不通が発生。帯広市内では23日午前0時から25日夕方までの間に、農村地区を中心に述べ約900戸が停電。電話の不通は延べ約500件。十勝管内で高速道路3路線、国道4路線、道道8路線が一時通行止めとなり、鉄道の運休、航空機の欠航など交通にも支障が生じた。22日午前0時から23日正午までの降雪量は、帯広市街地37cm、帯広空港52cm。帯広市の12月の「24時間降水量」及び「48時間降水量」の日最大値としては、1963年（昭和38年）の統計開始以来の最大値を更新（76mm）
令和5年5月30日	竜巻発生。午後3時20分ごろ、以平町付近で発生し、農家2戸の畑でニンジン1.6ha、大豆1ha、デントコーン1haに被害。とちり帯広空港午後3時25分発の航空機1便が出発を遅らせた。
令和7年2月3～4日	大雪害。発達した低気圧の影響により、4日9時までの12時間降雪量は帯広市街地で120cmとなり、国内の12時間降雪量の記録を更新。十勝管内各地でも記録的な大雪となった。 積雪により、学校の屋内練習場や農業用ビニールハウス倒壊など物的被害22件、除雪時の転倒など人的被害7件、その他1件。また、高速道路1路線、国道4路線が通行止めとなり、JRや路線バスの運休、航空機の欠航など公共交通機関に支障が生じたほか、各地でスタックした車が相次いだ。 雪害対策本部を設置。

（2）水害

発 生 年 月 日	被 害 状 況
大正2年8月28日	台風による被害。降水量139mm
大正3年8月14～15日	低気圧による洪水
大正5年5月9日	融雪出水
大正8年9～10月	十勝川が3回にわたって氾濫、河西橋が流失 十勝では住宅、農作物、公共土木などの被害額6,505,576円
大正9年6月26日	十勝川溢れ、架替した河西橋落橋
大正9年8月9～11日	降水量115mm。帯広の浸水耕地160町歩
大正11年8月25日	帯広に大洪水。降水量214mm。十勝川とその支流の各河川は大増水。帯広町家屋の流失14、損壊9、床上浸水321、田畑浸水冠水流失597町歩、道路の決壊は道と市合わせて10か所880間、橋の流失4、破損1、堤防決壊7か所4,800間。被害合計827千円

第2章（帯広市の概況）

発 生 年 月 日	被 害 状 況
大正 15 年 10 月 2 日	連続 101mm に達する降水量。水害発生
昭和 10 年 8 月 28～30 日 昭和 10 年 9 月 24～26 日 昭和 10 年 10 月 18～28 日	降水量 105.4mm 降水量 105.2mm 降水量 145.4mm 帯広市街 3 回にわたり、大小の水害あり 浸水家屋約 2,800 戸。被害金額 397 千円
昭和 15 年～16 年	連続台風被害
昭和 22 年 9 月 14～15 日 昭和 23 年 9 月 15～17 日	カスリン台風 アイオン台風 帯広での耕作地被害 200 町歩
昭和 30 年 7 月 3 日 昭和 30 年 7 月 30 日	降水量 29.1mm 降水量 32.1mm 札内川氾濫
昭和 30 年 9 月 6～7 日	発達した低気圧により降水量 143mm。ウツベツ川溢水
昭和 37 年 8 月 3 日	台風 9 号。降水量 132mm。札内川、帯広川増水。市街地水害 (帯広市に災害救助法適用)
昭和 39 年 8 月 26 日	台風 14 号くずれの低気圧の影響で降水量 128mm
昭和 40 年 9 月 14～18 日	台風 24 号とこれに先行した 2 つの低気圧の影響により降水量 113mm
昭和 41 年 6 月 28～29 日	台風 4 号。降水量 91mm
昭和 42 年 6 月 5～7 日	降水量 118.2mm で河川溢水
昭和 46 年 9 月 12 日	台風 26 号被害
昭和 47 年 9 月 17 日	台風 20 号被害
昭和 48 年 8 月 22～23 日	帯広で 95mm の降水量。道路・堤防など決壊被害
昭和 48 年 9 月 14 日	114mm の降水量で中小河川氾濫。道路の決壊、家屋浸水などの被害
昭和 49 年 4 月	降水量 164mm (平年値 61.8mm の 2 倍)
昭和 49 年 6 月	この月の降水量は平年の 93.4mm を大幅に上回り、244mm と帯広測候所観測開始以来の記録的な降水量
昭和 50 年 5 月	降水量 164mm。平年値 75.7mm の 2 倍
昭和 50 年 8 月 24 日	台風 6 号。降水量 56mm、床上浸水 45 世帯、床下浸水 140 世帯
昭和 51 年 10 月 20～21 日	降水量 65.5mm で 1 時間雨量 23.5mm となり 10 月の最大値を記録。家屋の浸水、河川決壊、線路の冠水のため運休。強風による負傷者あり
昭和 52 年 7 月 2～6 日	長雨。総雨量 112mm、道路の決壊、土木、林業関係の被害

第2章（帯広市の概況）

発 生 年 月 日	被 害 状 況
昭和54年10月19日	台風20号。降水量94mm。床上浸水1世帯、床下浸水17世帯
昭和56年8月4～6日	台風12号。降水量162mm、床上浸水11世帯、床下浸水70世帯、4,400haの畑に被害、その他の土木被害等あり 被害合計2,306,000千円
昭和63年11月24～25日	降水量192.5mm。床上浸水7世帯、床下浸水99世帯、道路の決壊、土木、農業関係に被害
平成3年8月21日	浸水害、降水量は帯広76mm、農業被害890,000千円
平成4年8月7～9日	浸水害、台風10号による大雨 降水量は帯広49mm、足寄、陸別町中心に農業被害463,200千円、林業被害200,000千円
平成4年9月9～12日	浸水害、台風17号による大雨、帯広の総雨量135mm 河川、住宅電力関係に被害が発生。農業被害面積は681.6ha
平成5年6月3～6日	浸水害、帯広の総雨量162mm、農業被害552,850千円、林業被害76,200千円
平成6年9月18～20日	浸水害、秋雨前線により上士幌・音更町で床下浸水。 帯広の総雨量88mm
平成9年8月9～10日	温暖前線と台風11号から変わった低気圧による大雨。帯広の総雨量102mm
平成10年8月27～30日	浸水、洪水害。帯広の総雨量152mm、管内北部を中心に被害が集中
平成10年9月15～16日	浸水、山がけ崩れ被害。台風5号による影響で管内南部を中心に総雨量300mmを越え、帯広は120mmの大雨となった。災害対策本部設置
平成11年7月13～15日	浸水害、停滞前線による大雨、帯広の総雨量100mm。明きょ排水流出、農地一部冠水
平成12年4月22～23日	浸水害。帯広の総雨量94.5mm。床上浸水1世帯、道路冠水等
平成13年9月11～13日	浸水害。帯広の総雨量159mm。市道決壊1箇所、札内川水系緑地浸水被害
平成14年7月10～11日	浸水害。帯広の総雨量127mm。台風6号による影響で道路冠水、農作物倒伏被害（30.3ha）等
平成15年8月9～10日	浸水害。帯広の総雨量167mm。台風10号による影響で道路・宅地冠水、橋梁一部損壊（居辺川の橋脚脇道路崩落）
平成18年6月24日	北海道付近は気圧の谷となっており、上空には寒気が流入し、大気の状態が非常に不安定となっていた。帯広市では、路肩崩落のため市道2本が通行止め、道道と市道それぞれ1本が片側通行。帯広の総雨量25mm
平成23年9月1日～8日	9月1日から8日にかけて、台風第12号、北海道付近に停滞した前線及び台風第13号からの湿った空気も合流。帯広の総雨量が128mm。 十勝川洪水予報発表。帯広川での内水氾濫、高速道路道東自動車道、国道、道々の通行止めやJR等交通機関の運休

発 生 年 月 日	被 害 状 況
平成28年8月30日～31日	8月17日～23日に3つの台風（7号、11号、9号）が北海道に上陸。30日から31日にかけて北海道に接近した台風10号の影響による大雨。帯広の29日～31日の3日間雨量は129.5mm。中島町で戸蔭別川が氾濫。市街地では木賊原樋門周辺での内水氾濫、バラト地区での地下水上昇による冠水。住家被害は床上浸水3件、床下浸水24件。十勝川・札内川の河川敷の運動施設冠水。畑の冠水447ha。橋梁崩落2橋。道路被災35箇所。その他倒木被害等多数。 災害対策本部設置。札内川沿い、十勝川沿いに避難勧告発令。市内20箇所の避難所開設。十勝19市町村に災害救助法適用。激甚災害指定。
平成30年3月8～9日	同年3月1日の大雪による積雪が解消されないまま、更なる降雪から雨へと変わったことにより、道路等の排水機能が著しく低下し、市内各地で道路冠水が多発。市内4カ所の事業所で床上浸水。 9日は市内全小中学校で臨時休校。 帯広市内の降雪量11cm、降水量68.5mm。
令和4年8月16日	十勝の山間部で前線と低気圧の影響によりまとまった雨が降った影響で、十勝川へ流入する伏古別川の水流が停滞したことにより、木賊原樋門付近で道路冠水が発生。帯広開発建設部に樋門閉鎖と排水ポンプ車の出動を要請。 帯広市の総降水量は74mm。帯広市に「土砂災害警戒情報」及び「洪水警報」が発表された。

第3節 被害想定

洪水

（1）現況

洪水により被害が想定されるものとしては、集中豪雨や局地的大雨による河川の氾濫や堤防の決壊があり、これに伴い、建物の浸水や道路の冠水などが発生することが考えられる。

帯広市の年間降水量は全道平均より低く、全国的に見ても小雨地帯であるが、市街地は全国有数の流域面積を誇る十勝川と札内川に囲まれ、これらの川の支川が市内を流れている。また、市街地は扇状地からなる急勾配の地形となっており、破堤した場合に氾濫流により甚大な被害が発生する可能性がある。

過去の代表的な洪水被害の事例として、1981年（昭和56年）の台風12号や2016年（平成28年）の台風10号の影響による被害があり、建物の浸水や橋梁の崩落、農地の流出など、帯広市をはじめ十勝管内で甚大な被害を及ぼした。

（2）国・北海道の浸水想定

国や北海道では、洪水により重大な、又は相当な損害を生ずるおそれがある河川を洪水予報河川や水位周知河川として指定している。これらの河川において、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより被害の軽減を図るため、想定最大規模降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、浸水深等を示した洪水浸水想定区域図を作成し、公表している。

洪水浸水想定区域図が作成されている帯広市内の河川

河川管理者	河川名
国（洪水予報河川）	十勝川、札内川、帯広川
北海道（水位周知河川）	途別川、売買川、帯広川、ウツベツ川、柏林台川、新帯広川

（3）帯広市の被害想定

帯広市では、国や北海道が公表した洪水浸水想定区域図を統合した帯広市洪水ハザードマップを作成し、公表している。帯広市洪水ハザードマップを基に、洪水浸水想定区域内の人口や全国及び十勝における実災害時の避難率を用いて避難者数を推計した。推計の結果については次のとおりである。

洪水浸水想定区域内の人口	約128,500人
避難率	13%
洪水による避難者数	約16,700人

帯広市洪水ハザードマップ

